

# ケーブルおよびコネクタ

- [コネクタの仕様 \(11 ページ\)](#)
- [ケーブルおよびアダプタ \(12 ページ\)](#)

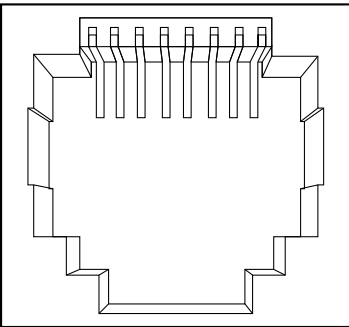
## コネクタの仕様

- [10/100 ポート \(11 ページ\)](#)
- [SFP モジュールのコネクタ \(11 ページ\)](#)
- [ケーブルおよびアダプタ \(12 ページ\)](#)

## 10/100 ポート

スイッチ上の 10/100 イーサネット ポートには RJ-45 コネクタを使用します。図 2 10/100 ポートのピン割り当て (11 ページ) にピン割り当てを示します。

図 2 10/100 ポートのピン割り当て

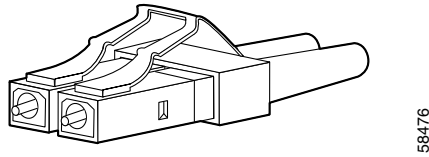
Pin	Label	1 2 3 4 5 6 7 8
1	RD+	
2	RD-	
3	TD+	
4	NC	
5	NC	
6	TD-	
7	NC	
8	NC	

注 : PoE をサポートする IE 1000 スイッチの 2 種類のモデルでは、コネクタ ピン 4 および 5 は +48 VDC 用であり、ピン 7 と 8 は DC 復帰電圧ラインです。

## SFP モジュールのコネクタ

図 3 光ファイバ SFP モジュールの LC コネクタ (12 ページ) に、SFP モジュール スロットで使用される MT-RJ 型コネクタを示します。これは光ファイバ ケーブル コネクタです。

図 3 光ファイバ SFP モジュールの LC コネクタ



**警告：**接続されていない光ファイバケーブルやコネクタからは目に見えないレーザー光が放射されている可能性があります。レーザー光を直視したり、光学機器を使用して直接見たりしないでください。ステートメント 1051

## ケーブルおよびアダプタ

- [SFP モジュール ケーブル \(12 ページ\)](#)
- [ケーブルのピン割り当て \(12 ページ\)](#)

## SFP モジュール ケーブル

各ポートはケーブルの両端の波長仕様が一致している必要があります。また、通信の信頼性を高めるため、ケーブル長は制限値を超えないものとします。

### 注記

- スイッチの最大動作温度は、使用している SFP モジュールのタイプに応じて異なります。
- モード帯域幅はマルチモードファイバにのみ適用されます。
- モードフィールドの直径 / クラッドの直径 = 9 マイクロメートル / 125 マイクロメートル
- 1000BASE-LX/LH SFP モジュールと MMF を使用しており、リンク距離が短い場合は、モード調整パッチコードが必要です。普通のパッチコードを使用すると、トランシーバが飽和状態になり、ビットエラーレート (BER) が上昇することがあります。直径 62.5 ミクロンの MMF を備えた LX/LH SFP モジュールを使用する場合はさらに、リンクの送信側と受信側の両方で、SFP モジュールと MMF ケーブルの間にモード調整パッチコードを取り付ける必要があります。モード調整パッチコードは、リンク距離が 300 m (984 フィート) を超える場合に必要になります。
- 1000BASE-ZX SFP モジュールは、分散シフト型 SMF または低減衰 SMF を使用することによって、最大 100 km (62 マイル) 先までデータを送信できます。この到達距離はファイバ品質、スプライス数、およびコネクタに応じて異なります。
- 光ファイバケーブルの長さが 25 km (15.43 マイル) 未満の場合は、光ファイバケーブルプラントと 1000BASE-ZX SFP モジュールの受信ポートの間に、5 dB または 10 dB のインライン光減衰器を取り付けます。

## ケーブルのピン割り当て

図 4 10/100 ポート用の 2 対のツイストペアストレートケーブルの配線

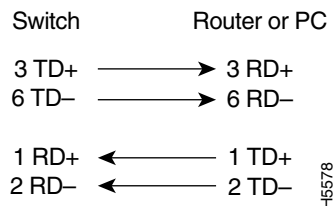


図 5 10/100 ポート用の 2 対のツイストペア クロス ケーブルの配線

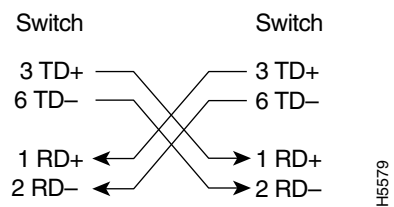


図 6 クロス ケーブルの識別

